

Title	松山教授の逝去と葬儀
Author(s)	
Citation	懐徳. 1927, 6, p. 10-10
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/88732">https://hdl.handle.net/11094/88732</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 松山教授の逝去と葬儀

先生は昭和二年二月二十三日熱せりとて臥床せられ、爾來自宅に於て百方療養に努められしも病勢次第に昂進せる爲め、四月十五日烏瀉病院に入院、院長、係醫員の手厚き診療を受けられしも、藥石其の効を奏せず、竟に同月二十三日午後七時三十分逝去せられたり、遺骸は同夜夫人、令息、今井理事、岡野幹事、聽講生有志附添ひ自邸に入り、遺族、親戚、其他緣故者の手に依り通夜行はれ、次で二十六日正午同邸に於て葬儀執行、遺族、親戚、聽講生並に近隣有志の參列あり、午後一時靈柩を自動車に移し、懷德堂に送り、午後二時二十分より同堂に於て告別式を行ふ、京都帝國大學文學部總代、東京加納塾同窓會總代、懷德堂理事總代、懷德堂聽講生總代の弔辭朗讀あり、終つて遺族、一般參列者の焼香あり、同三時三十分式を閉ぢ、再び靈柩を自動車に移して遺族、親戚、聽講生に護られ阿部野火葬場に送り茶毘に附せられたり、當日の參列者は京都帝國大學文學部諸教授、野田義夫、中目覺、安井小太郎、三浦菊太郎の諸名士、懷德堂理事、同評議員。同堂友會員、同聽講生等約三百名なりき。